『浪華名所獨案内』

天保年間　石川屋和助　35 ㎝×50 ㎝　関西大学図書館蔵

あまりにも有名な地図で、本で、ネットで、多数の解説を読むことができる。『大阪市街全図』（大正 2 年）と同じく、カリフォルニア大学バークレー校図書館が公開している。

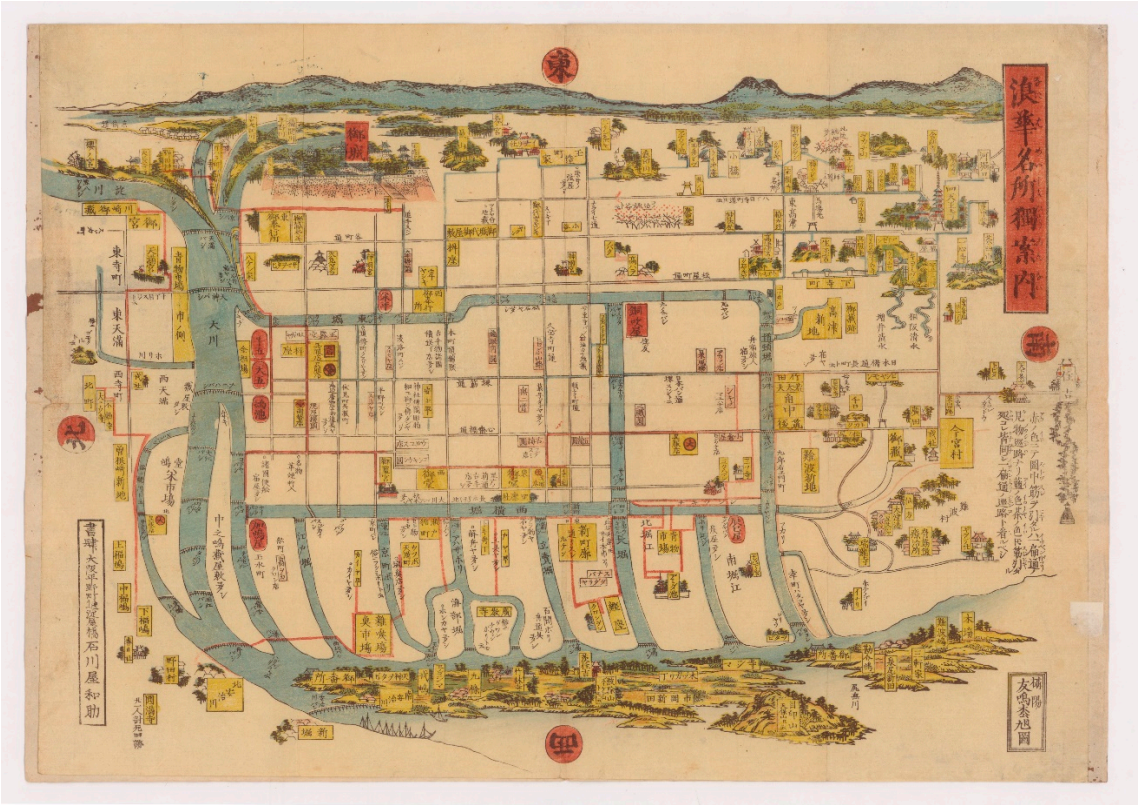
「住まい情報センタースタッフが見つけた、住まい・まちづくり活動の事例や大阪の魅力情報を綴るブログ」の 2015 年 12 月 21 日「『浪華名所獨案内』について」によれば、「一枚摺りの地図で、この地図一枚で大坂の観光を独りで楽しめるようになっています。

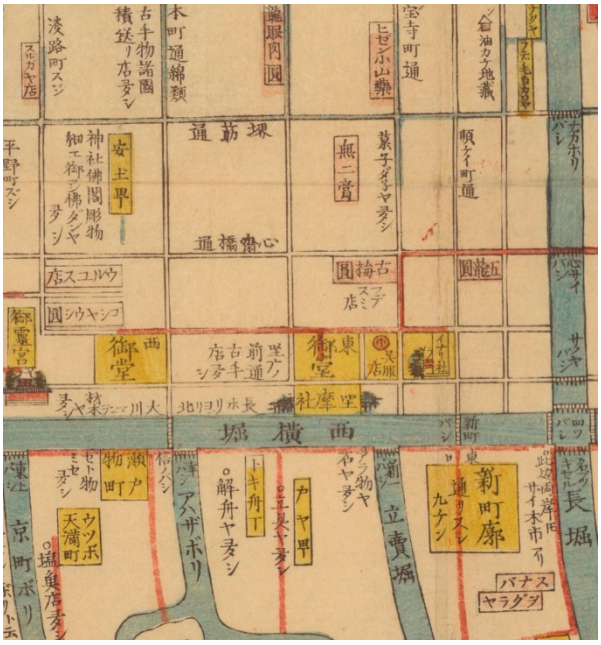
地図の右中央に、『赤の色にて図中筋を引きたるは一遍通りの見物巡路なり。藍の色茶の色にて筋引きたる所これ皆同じ一遍通りの巡路と見るべし。』とあります。現在の観光ガイドマップのモデルルートと同様の手法が、200 年近く前に既に使われていたことは驚きです。昔の人は健脚だったので、2 泊 3 日で、3 つのコースをめぐれるという仕掛けになっています。」（http://sumai-osaka.blogspot.com/2015/12/blog-post_21.html　2020 年 1 月 3 日確認）　その他、このブログに詳しく解説されているので、ぜひ参照されたい（「浪華名所独案内、ブログ」で検索すれば、トップにヒットするはず）。

この地図は、細かい説明が案外と多い点がおもしろい。「京町ボリ」の北河岸には「俗ニフシミボリト云フ」、南河岸には「塩魚店多シ」と書かれている。西横堀川の東河岸には「長ホリヨリ北　大川マデ　材木ヤ多シ」、道修町には「クスリヤ多シ」、伏見町と呉服町には「此辺唐物店茶道具ヤ多シ」など。当時の「大阪もん」商品は、「ツノセ岩ヲコシ」、「虎屋饅頭」、「日本一風薬」、「ヒゼン小山薬」、「無二膏」、「フデノチクヤ」、「フデ毛白カワヤ」、「シキブマユハケ店」、「小倉屋ビンツケ店」などがある。西御堂の東側に「ウルユス店」とあり、「はりきゅう Web ミュージアム」の「江戸時代の不思議な名前の薬『ウルユス』」によれば、文化 8（1811）年に発売された日本最初の洋風の名のついた売薬だそうだ（https://mumsaic.jp/museum/index.php?c=museum_view&pk=1428993499　2020 年 1 月 3 日確認）。なんでも「ウ＋ル＋ユ」で「空」となり、「空す」つまり腹の中を空にするという緩下剤である。高津宮の麓には「クロヤキヤ」があり、『摂津名所図会』にも載る有名店であった。一軒の「鳥屋市兵衛」は昭和 54 年まで営業されていた。

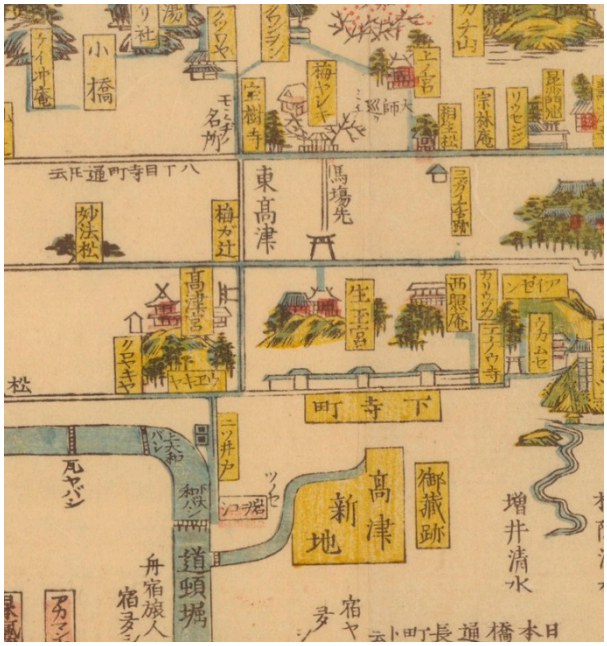
難波村には「骨筋違療治所」があり、当時の観光客の疲れを癒やす人気の接骨院であったのだろう。西奉行所の東側には「牢ヤシキ」とあるが、ルートには入っていない。「中之嶋」は「蔵屋敷多シ」とあり、先端の「山サキ」は難波橋にかかっていない。

200 年ほど前の「大坂」観光地図は、今でも史跡巡りの観光地図として、十分に楽しませてくれる、「ツボにはまった大阪観光」（本渡章『古地図で歩く大阪ゼ・ベスト 10』）ものだ。





・西御堂の上（東側）の「ウルユス店」



・高津神社の「クロヤキヤ」